



挨拶の中坪会長

第七十一回 富山県芸術祭主催 第二十六回 富山県民芸術文化祭参加 秋季俳句大会

野崎 博先生の講演を聴く

富山県芸術祭主催並びに富山県民芸術文化祭参加の秋季俳句大会は風爽やかな十月一日(土)午後一時から、北日本新聞ホールにて、百一名の参加を得、坂

田直彦幹事の司会により開催。中坪達哉会長は、三年ぶりに全ての行事を行なったことや、今後も合同句集を通して会員相互の交流と研鑽を深めてほしいと挨拶。続いて、TPS富山県写真家協会会長野崎博先生を講師に迎え、「写真は感動の伝言板」の演題で、見る人に撮影者の感動をどのように伝えられるか等について、写真をもとにお話いただいた。

(講演要旨は別掲)
小憩後、俳句大会に入る。すでに出版されている五六八句(二八四句)について、連盟役員に選考された特選句、入賞句を森純子理事、宮崎あつ子幹事が披露。そのあと荒木かづを幹事、川井城子幹事、布本美知子理事、浅野義信副会長が講評。
引き続き表彰式に移り、黒田修一朗北

富山県俳句連盟会報

令和四年十二月一日発行
富山県安住町二一四
〒930-0094 電話 〇七五-四四三-四四四
振替番号 金沢 五一一七二〇八
北日本新聞社編集局内
富山県俳句連盟

第 95 号
富山県俳句連盟

日本新聞社生活文化部次長より北日本新聞社賞、中坪達哉会長より連盟賞がそれぞれに贈呈された。(成績は別掲)
浅野義信副会長が閉会の辞を述べ大会は成功裡に終了。
尚、当日連盟合同句集(第四十七集)を発刊し配布した。
また、北日本新聞社主催の「越の賛歌」作品(投句数二七九句)の入賞句は北日本新聞十一月三日付け朝刊に掲載され発表となった。

連盟夏季吟行会

射水市新湊 高周波文化ホール
七月十八日(月・海の日) 夏季吟行会を開催。射水市高周波文化ホールを会場に炎暑の中、内川周辺、海土丸パーク、新湊大橋等を吟行。講演は行われず、参加役員が選句を行った。出句は一二四句参加者五七名。
天位
雲の峰大河音なく海に入る 升田 義次
地位
橋めぐり台歓咲く下に椅子ひとつ 高橋せつ子

人位
川風はやがて海風朱夏の水脈 一俣れい子
富山県現代俳句協会
秋季吟行俳句大会
九月二十三日(金・秋分の日) 三年ぶりの開催。魚津水族館、ミラージュランド、魚津総合公園等を吟行。参加者は四十三名。NAPSとの共催。
天位
空席に昼の虫乗せ観覧車 二口わこう
地位
秋雨やビタミン色の遊園地 飛世 峰子
人位
ゆるゆると秋思を廻す観覧車 久崎富美子

令和五年度
総会・俳句大会(予告)
日時 令和五年六月三日(土)
十三時~十六時
会場 北日本新聞ホール
講師 ホトトギス同人会長 安原 葉 先生

令和五年度
夏季吟行俳句大会(予告)
日時 令和五年七月十六日(日)
十三時~十六時
会場 魚津市 埋没林博物館ホール
講演 なし

秋季俳句大会作品抄

◆連盟選者特選句

- 義 信選 昼も夜も遮光カーテン沖繩忌
かづを選 将棋盤挟みて対話夏休
冬 青選 新涼や掌に馴染みたる国語辞書
玲 子選 香水の仄かな席を譲らるる
可津志選 迎への腕に農夫のなごり生身魂
置 箔選 魂迎へ開きし亡夫のシヨートメール
こつき選 癒ゆる身の草引く力戻りけり
康 裕選 木綿派の祖母の暮らしや水を打つ
久 惠選 借老の来し方語る夜長かな
城 子選 一服に畑の西瓜を鎌で割り
ゆづ子選 耐へること死語になりけり蟻の列
弥 生選 うつくしく齡かさねし裸の木
富美子選 漁り家の灯を消す端居かな
美智子選 手も足も遊び尽して昼寝の子
洋 子選 二の腕に農夫のなごり生身魂
直 彦選 先生は寝たふり児らの昼寝時
一 子選 どの石も仏に見えし花野かな
重 之選 新涼や掌に馴染みたる国語辞書
桂 子選 癒ゆる身の草引く力戻りけり
恵 子選 癒ゆる身の草引く力戻りけり
昭 夫選 うつしみを確かむること水着干す
勇 選 手も足も遊び尽して昼寝の子
眞知子選 婦省子の真つ直ぐに訪ふ墓前かな
寿 山選 日覆をあげて終点海光る
三 久選 大蚯蚓古釘のごと橋に臥す
平 大選 傘立の杖賑やかに彼岸寺
達 哉選 まつ母を探すふると柿青し
睦 子選 鱒雲リモートで会ふ母の紅
美知子選 木綿派の祖母の暮らしや水を打つ

◇入賞句

- 多佳子選 千枚田つなぐ田毎の落し水
栄 子選 山の日や田にこんこんと峡の水
眞智子選 苛立ちを扇子を閉ぢて納めけり
幸 子選 手も足も遊び尽して昼寝の子
あつ子選 耳に棲む父の一と節風の盆
千鶴子選 炎天やイルカが高い輪をくぐる
純 子選 寢寢座して大の字の父懐かしき
稔 選 八月や父の勳位の重さ知る
とおる選 あめんぼのひとり遊びやひとり見る
天位⑬ 手も足も遊び尽して昼寝の子
地位⑫ どの石も仏に見えし花野かな
人位⑨ 二の腕に農夫のなごり生身魂
(特選②)
4位⑧ 耳に棲む父の一と節風の盆
(特選①)
⑨ 花火師ら湾へ黙礼して帰る
5位⑧ 石仏の輪袈裟を正す菊日和
⑧ 生きるとはこう言う事と鮎跳ねる
⑧ 傘立の杖賑やかに彼岸寺
6位⑦ 給馬吊す指の先まで蝉しぐれ
⑦ 爽やかや背中にも今も子の重み
⑦ 将棋盤挟みて対話夏休
7位⑥ はじめての赤き自転車小鳥来る
⑥ 癒ゆる身の草引く力戻りけり
⑥ 灼けながら一両電車海へ行く
⑥ 弾き終へて一礼涼し駅ピアノ
⑥ 漁火に家の灯を消す端居かな
⑥ 立山の雲に手を挙げ帰省せり
⑥ 惚けるのも老の道草瓜の花
8位⑤ 磐座へ磴百段や鴨足草
⑤ 向日葵の笑ひ疲れし夜の黙
⑤ 立ち泳ぎして夕焼を乱さずに
⑤ 夕立の書肆に長居となりけり
⑤ 昼も夜も遮光カーテン沖繩忌
谷 雅夫
内橋はるみ
牧野きよ子
脇坂琉美子
高橋せつ子
坂田 久子
宮崎あつ子
石工 冬青
堀 智恵子

「越の讃歌」(食) 高点上位入賞作品

- 婦省子のまた言ふ水の旨きこと
風音の北又小屋の滑子汁
朝焼や何でも入れてかぶす汁
五箇山の家守り居て茗荷の子
百選の水に冷やさる団子かな
鱒汁や大鍋囲む漁師小屋
杉本 恵子
平野もとみ
森野 稔
小泉 恵子
内橋はるみ
大塚 諄子

◇句碑建立

- 水見市稲積・あいやまガーデン
令4・9・28 坂田 直彦
定年とは妻と落花を浴びること
他十五名 二十基

◇句集出版紹介

- 關 茂子「水声」 令4・7
「前田普羅 季語別句集」辛夷社 桂書房 令4・9
松本葉ツ双「俳句の杜」二〇二精選アンソロジー 令4・10

講演要旨



写真は感動の伝言板

T.P.S.富山県写真家協会会長



私は「写真は感動の伝言板」であると

考えています。見る人に撮影者の感動を
どのように伝えられるかを念頭に置いて
撮影しています。写真は動画と違って瞬
間を切り取るものです。つまりは時間が
刻まれたその一コマであると言えます。
静止させたその一コマの捉え方によつて
は動きを感じさせたり、感情の機微など
を伝えたりする事ができるわけです。た
だ技術はあくまでも表現の手段です。ま
ずは好奇心や感動の心を大切にすべきと
考えています。

■写真には色々な分野があります。
もっとも一般的な写真に風景写真もあ
ります。当然のことながら風景には季節
が表れますが、いわゆるピーカンと呼ば
れる快晴のお天気では悪い意味で「絵葉
書写真」と呼ばれます。でも絵葉書では
つまらないと思えるようになったら風景
写真家としては一流になれるかもしれま
せん。荒天こそは好天と捉えることがで
きるようになってから成功です。また「旬・
瞬・俊」が活きてくるのも風景です。風

景は変わらずに止まっているように思わ
れがちですが雲の流れがあり、水の流れ
も刻々と変化します。一番良い旬の時期
の良い瞬間を素早く（俊敏に）捉える必
要があるのです。集めて涼し、ではなく
て集めて速しと表現するかどうかを瞬時
に判断してカメラの機能を使いこなさね
ばなりません。また全部を写せばすべて
が伝わるというものでもありません。一
部を写して全体を伝えることが写真家の
作品として目指すところなのです。

人物撮影の中にある記念写真はひよっ
としたら写真の中でもっとも重要なもの
であると言えます。記念写真の多くは人
生の一コマを残しているからです。残念
ながら人間のメモリーは身体とともにい
ずれ消えてしまいますが、適切に残され
た写真は後世までも残ります。またそこ
まで長いサイクルでなくて十年でも懐か
しさと共に残された価値は大きいと言え
ます。最近の流行りで妙に変形させたり
美化した映像が増えています。「真実」
は大切です。うまく撮る必要はありません

んが周りの風景までも含めた真実の記念
撮影は最高の作品となります。七十年前
五十年前の自分の姿、家族の姿を見ると
写真が残っていて良かったな〜と思える
はず。震災などで家財が流された方
のアルバムが見つかった時の喜びは如何
ほどかと考えます。デジタル時代となっ
て写真をプリントしない方も増えていま
すがデータの保存を真剣に考えるべきで
あると思います。

また人物の隠し撮りは現代ではご法度
です。良い関係を結んだ被写体。またあ
る意味では対決する被写体とのコミュニ
ケーションで写真の味が出てきます。言
葉も必要ですが仕草や態度も被写体と友
好的な関係を結ぶのに必要になります。
心象的風景というものもあります。見
る人によっては感想が大きく分かれる被
写体を表現して世に問うものですが、分
かる分らないかは個人の能力ですから
ターゲットは狭くなります。しかし以前
にピカソのゲルニカを見たときに何であ
るかわからないのに涙が出てきたことが
ありました。写真の場合も見ただけで感
情を伝えることができれば成功したとい
えるかもしれません。香りであったり、
風であったりという感触までも伝えられ
る写真を撮ることが私の目標です。

「映える」写真が流行っています。新
しい表現の挑戦と言えます。これはやは
りデジタル化とSNSの影響が大きいと
言えます。デジタルに変化して二十年あ

まり。カメラの内側は最新のコンピュ
ータへと変化しました。フィルムには絶対
に勝たないであろうと言われていたデジ
タルはいまやフィルムを凌駕して追い越
しています。「昔は味があった」とい
うのは負け惜しみにか聞こえませんが。最
近の「映える」の大きな要因としては人
間の目に近づいた表現力にあります。極
端に明るいのと暗い部分が同居した被写
体はアナログ撮影が困難でしたがデジタ
ルの機能を知っていてその能力を使うこ
とができれば、以前に比べるとすべてが
「映える」写真となります。またSNS
の浸透で紙媒体は減りましたが写真を見
ていただける数は比較にならない程増え
ました。私もインスタグラムで多くの方
と知り合う毎日です。デジタルの進化と
共に今までの「写真とはこんなものだ！
」という到達点を語っていた方は古い人間
になってしまいました。でも何を撮りた
いか、何を見る人に伝えたいのか、と
いう自分の思いを持っている方にとつて
は、道具が変化しても振り回されること
はありません。思いを表現するために技
術があります。写真を撮る過程での感動
表現のために「技術と思いのバランス」
が崩れることのないように自分を戒める
毎日です。これからも感動との出会いを
大切にして一瞬の刻（とき）を一枚の写
真に焼き付ける日々を送りたいと願って
います。

INSTAGRAMアカウント nozakiphoto

俳人協会富山県支部

俳句大会

九月二十三日(金・秋分の日)富山電気ビルにて開催。俳人協会評議員「雲取」主宰鈴木太郎氏を講師に迎え講演を聞く。演題は「森澄雄の富山・金沢の俳句」。五十九名参加、三句投句、互選。講師特選

身ほとりを身軽にすれば小鳥来る 成重佐伊子

まろびくる魚道の水や秋彼岸 平井 弘美

秋日傘母に傾け野道ゆく 野村 邦翠

暁の劔岳を仰ぐ秋彼岸 脇坂琉美子

☆互選高地点 藤井 芳子

一位 高窓をあけて寢惜しむ良夜かな 野中多佳子

二位 ちちろ鳴く手紙の結び書きあぐね 野村 邦翠

三位 降りさうな雲を吉とし大根時く 川井 城子

俳人協会第六十二回全国俳句大会

「ジュニアの部」

大会賞

びょういんでママと二人のはる休み

高岡市立伏木小学校 金業森 碧人

学校賞 高岡市立伏木小学校

奨励賞 富山県立鱈川小学校

消息

高瀬遺跡菖蒲まつり俳句会

国指定遺跡になり五十年を迎えた高瀬

遺跡を祝し、第四十八回高瀬遺跡菖蒲まつり俳句大会が六月十九日(日)、「あずまたち高瀬」にて開催。麻がら句会主催。特選

荘園の残る舟道花菖蒲 大浦 昌美

火の気無き炉辺に四つの円座かな 宇野 恭子

天平の水路涼しき荷舟跡 岡部 吉女

千年を越す流れ護り花菖蒲 川井 城子

万緑や風もいよいよ青年期 川井 城子

句碑建立記念俳句大会 九月二十八日(水)氷見市あいやまがーデンにて開催。

坂田直彦県俳句連盟幹事 選

特選 句碑の丘この句が好きと秋の蝶 倉西 康子

我が句碑を読んでくれてる赤蜻蛉 栃原百合子

「辛夷」年次俳句大会 十月九日(日)富山電気ビルで開催。

参加者七十名。令和四年度 辛夷賞 野村 邦翠

衆山皆響賞 浅尾 京子

奨励賞 寺田 嶺子

年次俳句大会 地位 岡田 康裕

人位 二俣れい子 倉沢 由美

多賀紀代子

第50回 砺波市文化祭俳句大会 十月十五日(土)砺波市文化会館にて開催。投句二六一句投句者八七名。

中坪達哉県俳句連盟会長 選 天位

法師蟬いつかは果つる看取りの日 砂田 春汀

人位 除草割かぬと決めて草刈女 西出 紀子

☆互選高地点 一位 新薬の青き匂ひを束ねけり 水木 柳子

二位 捨てし句を又読み返す夜長かな 源通ゆきみ

三位 子らの振る手も遠ざかり鱗雲 平木美枝子

◎ ふるさと文学講演会 六月二十一日(火)富山県立図書館にて開催。富山県立図書館・富山県読書会連絡協議会主催。

講師 中坪 達哉県俳句連盟会長

演題 とやまの風土と俳句「辛夷」百周年

◎ 第四十二回現代俳句評論賞特別賞(現代俳句協会主催)

『田一枚植て立去る』のは誰か―追憶とコントラストの視点から― 神保 と志ゆき

俳人松尾芭蕉が「奥の細道」に載せた句に新たな解釈を示した。

◎ 合同句集欠本の寄贈について(依頼)

俳句連盟では「富山県俳句連盟合同句集」を保存していますが左記の号が欠本になっております。ご寄贈いただければ幸いです。連絡先 事務局 中島まで

欠本番号 発行年 欠本番号 発行年

第1集 昭和51年 第2集 同52年

第3集 同53年 第4集 同54年

第5集 同55年 第6集 同56年

第7集 同57年 第8集 同58年

第9集 同59年 第17集 平成4年

第19集 同6年 第31集 同18年

◎ 富山ホトトギス俳句会 「ホトトギス」名誉主宰稲畑汀子先生が今年二月に九十一歳で亡くなられた。追悼会が六月、日本伝統俳句協会主催で東京都内で開かれ、十月にはホトトギス社主催のお別れ会が行われた。

◎ 第三十一回北陸現代俳句大会(予告)

(協会員・非会員問わず) 日時 令和五年五月二十日(土)

会場 富山県民会館四〇一号室

講演 神野紗希現代俳句協会副幹事

長 演題 未定

募集作品 未発表句・雑詠二句一組(何組でも可)

募集締切 令和五年二月二十八日(火)

投句料 一組 一、〇〇〇円(作品に同封)

その他 詳しくは北陸地区現代俳句大会運営 主務(高木昭夫)に確認

編集後記

連盟会報95号をここにお届け致します。次回96号は令和五年七月一日発行予定です。会報に関する記事等があれば原稿用紙に記入の上、左記に送付下さい。(郵送又はFAXのみ)

〒931-0121 南砺市井波一四八五二六 FAX・TEL 〇三〇 八二一九〇八 高田 勇